



## 弱いロボット ～「弱さ」を「強さ」に～

校長 三浦 学

天高く晴れわたる青空のもと、10月22日に合唱コンクールが市民文化会館で行われました。新型コロナウイルス下の制約や高みをめざすがゆえの葛藤などを乗り越え、大きな価値、意味のあるものとなりました。苦手だったり照れたりで本気になれないなど誰にもある弱さや感染対策のマスク着用などを、皆で工夫して解決し心をふるわせる合唱を創りあげたことに敬意を表します。

地域のボランティアの皆様には、当日の検温や消毒、移動の安全確保等だけでなく先週1週間、玄関で朝の検温、声かけをいただきました。誠にありがとうございました。保護者の皆様には参観は叶いませんでしたが、ご理解、ご協力、ご支援いただき誠にありがとうございました。

合唱コンクールに先立ち10月4日の全校朝会(放送)では、オードリー・タンさんの話をしました。タンさんは台湾のデジタル大臣でマスクマップも話題になりました。中学校中退ながらアメリカの雑誌で「世界の頭脳100」に選ばれた方です。そのタンさんが、仕事を進めるときにいつも言っている「Ubuntuの精神」(Spirit of Ubuntu)を紹介しました。南アフリカの言葉で、「一人一人の能力は違うから、単独ではなくお互いに助け合うことによってこそ、自分の限界を超えてより良いものができるのだ」という考え方です。

(近藤弥生子著『オードリー・タンの思考 IQよりも大切なこと』より)

「弱いロボット」。岡田美智男さんは、変化の絶えない不安定な時代を生きるには「弱いロボット」の思考で、と言います。例えば、丸いお掃除ロボットは真つすぐにしか動けない不完全で「弱い」存在ですが、壁や机にぶつかると方向転換して進み部屋を満遍なく掃除してしまう。制約や周りの環境(本来障害物で嫌な壁や家具)を味方にし上手に生かして解決する「強さ」があると。自立とは、誰の手も借りず一人で行えることではなく、頼る先を増やし豊かにすることだと言います。人と人との関係も、自分が弱さをさらけ出すことで相手の優しさを引き出すことができる。そして、補い合いや支え合いの中で、困難を乗り越える強い力が育まれていくというのです。岡田さんは昔、数学、特に因数分解が苦手一人で解けないとき、学校で友達に教えてもらい次の展開が開けたと言います。不完全さという意味での「弱さ」を共有して距離が縮まり、時には逆に助けるなど共感や思いやりがあり、不完全さ、弱さを認め合いながら、皆が支える側にも支えられる側にもなるような社会づくりが大切だということです。

(参考図書:『危機の時代を生きる』、『(弱いロボット)の思考 わたし・身体・コミュニケーション』)。

「受験は団体戦」といわれます。受験に向けて思いきり勉強する雰囲気のある学級、集団は強い。伸びる。恥ずかしい、バカにされるなどと恐れることなく、互いに弱さを出せて助け合い支え合う。制約や環境を味方にし受験を乗り越えていく。まさに「弱いロボット」の強さです。3年生には、合唱コンクールで高めた、よき仲間、よき学級のパワーで受験に立ち向かっていただきたい。2、1年生も定期テスト、新人戦・公式戦に向けて同じようにと願い期待しています。

「裂け目があるからこそ、そこから光が差し込むことができる」(レナード・コーエン『Anthem』(賛歌、祝歌))。裂け目つまり欠点などがあるからこそ、光が差し込む。オードリー・タンさんがよく引用する好きな言葉だそうです(前掲近藤さんの著書より)。

保護者、ご家族、地域の皆様には、変わらぬご支援をお願いいたします。

